

**【拝啓 石原都知事 殿】** 先月の都知事選の前に、石原都知事宛てに送った文章を紹介させていただきます。

拝啓 石原都知事 殿

東京マラソンの成功をお祝い申し上げます。

1年に1度、都民共通の明るいニュースがあることは大変に喜ばしいことです。

12年間、大変に御苦労様でした。4月の知事選には、小児淫行罪の前科者や、何か訳のわからない居酒屋のオヤジが政治に興味を持ったとかで手を挙げているそうですが、困ったものです。大変ではございましょうが、石原都知事には、もう1期お願いし、是非、子供の教育を東京から変えて欲しいと思います。

現在、文科省などが、少人数の教室を考えているようですが、私は絶対に反対です。なぜならば、子供達にはそれぞれ発育や環境による違いがあり、それをおしなべて、金魚や熱帯魚のようにケースの中で整理し、一律にしようというのは、おかしな話です。

我々の時のように、多様な魚が泳ぎ交う大きな水槽の中で、1クラス50名くらいに増やして教育すべきと考えます。子供達は、その中で様々な刺激、不自由や困難に直面し、自ら、物や事の変化に気が付き、今あることに感謝の気持ちを持った人間に成長できることでしょう。政治には石原氏のような哲学が必要です。

私は北区で開業している獣医師ですが、かつて、小学生の女の子とその母親(二人とも、今で言う“セレブ”な風貌)が、既に死亡し半ミイラ化した手乗りセキセイインコを連れて来院し、母娘そろって「先生、電池を取り換えて下さい」と真顔で訴える、というショッキングな出来事をきっかけに、ボランティアで子供会「SANCS」を立ち上げ、以来30年間、自然科学を通し、子供達に自己啓発のチャンスを提供する活動をしております。

子供会の約束事は、“親方の話を聞こう”、これだけです。親方とは、各活動時の指導者、例えば、農作業であればお百姓さん、科学実験であれば元教師、工作であれば大工さんになります。それこそ、子供会は年齢や性別、家庭環境などが様々な混合水槽の状態ですが、この約束事を守った上で、子供達の自主性に任せていれば、子供達の中には自然と縦社会が出来上がり、分別、協調性、洞察力、臨機応変さといった成長に必要な不可欠な要素が自ずと身に付くようです。

日本をよくするためには、子供の教育が何よりも一番です。是非とも、石原都知事には来期も出馬、当選いただき、子供の教育を“やり直して”いただきたいと切に願います。

敬 具

